

[illegible]

日米問題討議

關稅地帶設置

米獨の援助交渉〔華盛頓一日電〕

伊米聯盟協議

この際、政府は食料配給をなすの意あり、ヨークシヤの諸工場、蘇格蘭の製銅場は、六日より二割五分減縮せらるべし。

召集決定
石炭坑夫同盟の援助に待つ外
を執行する場合

二日發軍、樞國議會は共和國を繼徴する様南協

伊太利チエツク間にありて反響の氣勢

古は戦争の原因に見なすべし。其の取極あり又昨年サツバロ會議あるを結構にして全

電報に希臘議會の多數黨領袖たるグルナリスは衆國駐英大使タルベ

支那正式通告を

【三日電】外交部は在京國代表フオンブルヒツ
なる獨支通商條約は兩者の間に意見漸く一致

外蒙帝國成る

黃西軍司令任命

民國新大綱案

國府の主張に據する英
 約をなす場合には國會非常會
 議に開ひ或は追加を求めざる
 べからず

聯盟盟委

露支通商問題
成立の見込
【北京三日發電】

國像備飛行將校二十名を個人資格にて我海軍省に招聘するに採擇法其他の

も其の默認を得て極東に於ける陸軍航空隊を發達せしむる特別委員會は議

この精神より元神辭任を申請し、殿行政を調査せしめ、聖上には留任して加養しあり、官房調査せしめ、

新民政

中西副四

首和山公訪問會見時間
後三時遂に逝去
辭令

式の決定書を請求人に交付すべし
前項の鑑定人は少くとも其の半數
は専門局職員以外の者より之を選
ぶべし

第三十五條 第一條
第五條 第十一條
第二十六條

第三十八條 煙草專賣
機又は卷紙の製造
報告を備へ左の事

三十條 自家用燃料作の許可を受ける者は燃料の種類、耕作地の位置及面積を記載したる申請書を提出すべし且、耕作地の面積、第七條、第十八條及第二項の規定に違反し、本令に依る

せむさるるときは許可申請書を提出すべし但し耕作廢止の許可申請書には自家用植草耕作許可證を添附

第四十二條 本令は施行の日より之

七月十日還に居船の所在を管轄する尊賢支局長に申告すべし
前項に依り申告したる者は其の所持する體裁に限り同令施行後當分の職員あり特別

附られ、藩に管下の政務に就き、
上する所あり、午餐を賜はり、午
三時歸京したり、東京特選
るしたり。

京畿^{きんぎ}連京^{れんきやう}城府^{じやうふ}の豫算^{よさん}が済んで
三校^{さんかう}の新築費^{しんしきひ}四
れくの建築費^{けんちくひ}が決定した
府の經營^{けいえい}すべき上

地築費二萬圓、汚物並除倉庫一
三、百戸の新築等、
四府廳舎増築費五千圓、土木費
躍すべき時機は、
で龍山排水工事費廿一萬圓、下
操て、今明は、

一、議員費用辯償一日二圓を四圓に引上ぐる改正案を否決し是を二圓に止め

女學校授
四月

五十圓券 四十六圓五十錢
五十圓券 九十三圓
五百圓券 四百六十五圓

貴族院議員を招待
於る各自の勞を謝

國防疫會議は、愈來る五月十日、
を以て京城に開催の事に確定
陸軍部官六等
總督府副官事務官
軍醫官六等

勸業農務會議

氏は不日左の通り阻叙せらる。次郎、木犀虎之助は多分六日の官職を以て員を召す。佐藤

總督府道事務官	吉村謙一郎
高等官三等	
總督府事務官	田中 卯三
高等官三等	

道に於ける所管事務に上るることなり

[illegible][illegible]

仁尾惟茂、岡喜七郎、佐竹
 學、室田義文、主人側々齋
 張中の處四日將歸
 相賜舊氏（奉天駐在
 東京醫學を志し舊多
 今岡喜七郎官云節に



朝鮮水産組合
咸南道支部長
多田泰藏氏談

第一回道評議員會の感想

李鳳南遺矢事訖

相反撥
するが如

の狀態を保持し和氣鼎々
會を告げたるは國家の爲

珍島の屋
参道部習山面一帯

總額百五十一萬餘圓

國庫補助金五萬二千餘圓

した位置であつて漁業の

漁業税と船税とを設け

して社會事業補助費の

て専ら原稿複製造版の部

勇まじき 競馬大會

つからず恰好の鼓馬目程の
早朝より會場へ急ぐ觀覽者

勿論一徹の御客は手に
握る我を忘れて熱狂し午後
五千餘頭中内地牽馬士

一層の人氣を呼ぶ微背装飾

人港、射水丸は十日頃

般來から種々詳細の調査

豆白肖々動

東京へ七萬枚平野丸▲仙臺

の間に輸出を見るへし
にありては南清主とし

第二回

道
間
や
公
井
府
手
福
川

二天

石油發動手操
大正八年十一月

京城黄巾町二丁目
銀松

江副商

坂谷川町帝國公債會社

入用

以上市內免
與本市內免
本埠二日
亦不

御報次第早刻參上可仕候

同ノハ修進ヲ希望者ノエ
來談アレ

御利便ヲ計ルト共ニカ
シテ左記ノ通り入札

大正拾年

10

茶○鳳○黑○御
御中添へ御注文乞ふ

強

△二口半打以下式御斷申候

内外帽子卸商會

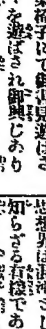
大隈元史區備後町立了自坪一普地

會名 淺野長商店

代宿市長田四番三〇七〇番
攝政大隈元史區立五之番

呈進久次方入

日、龍山練兵場にて風の候馬を走らす壯快にそ。
 馬場の下に於ける五月下たれか酒中であがが格闘。
 馬場の下に於ける五月下たれか酒中であがが格闘。
 馬場の下に於ける五月下たれか酒中であがが格闘。

[illegible]

めしが同日午後三時頃薩酒

[illegible]

各十月四五五均に各三
神楽坂は各二百圓、
泰松のみ控所即ち却
何れも其數輕重定した
願遂行の組員千名は三日島
ボート頭覆
暗殺を明かす。四名は不
て同地に婦人青年等極力搜
案中なり(弱電)
列車で輕傷
三日午後四金連輸、
たがが同人は京城府、
河田

の男があつたことは言ふまでもしなかつた。

車で輕傷
 三日午後
 四金延請
 といふ老人なり

天下第一品

1

小金井背洲講演

[illegible]

が健康に腸胃を増進してか
 ちが第一の要件であり
 多量に知らず識らず腸
 精細な婦人ならヒステリ
 に罹つて、婦人が多いのは
 深き憂ふべきことで非では
 ません乎、今日、人に注意し
 なくてはならぬ
 腸胃神經婦人において、ヒ
 ステリ、梅毒、癩、に激激な
 苦痛を誘ふ機、こは、いふア
 ラブツ病、ありまから却て、
 けいせん、潮は、何なく頭が
 けいせん、果て、なつて、頭
 非に感、し、心か、う、にな
 つて、野、い、頭、然
 何で、な、し、く、ひ、
 無つたり、悲、した、に、
 弱になつたり、又、感、優、喜
 易く怒り易く、感、優、喜
 して、食物に、味、消化、ま
 だんく、顔色も、く、なり、身
 バウチエロア、ヒステリー
 グリン、氏が、接、し、加
 安、ける、後、精、の、製、
 ち、ある、内、良、ンが、
 界の、新、中、民、依、り、
 米、國、の、ロ、ビ、ン、
 せ、れ、た、の、み、に、
 迄、切、れ、な、多、
 の、明、か、如、の、
 界の、新、精、に、高、な、
 すら、思、は、レ、ン、
 ら、が、
 腸胃、良、レ、ン、は、
 必要、な、重、成、分、を、
 は、世、界、の、多、の、
 を、配、合、化、學、的、
 薬、で、あ、り、ま、
 成分、を、直、に、
 腸胃、を、
 けい、疲、弱、物、を、
 エル、ギ、生、力、
 を、増、進、し、
 なる、し、の、
 川に、依、つ、て、
 腸胃、他、の、
 腸胃、を、

早メ、キ
 病んリ
 薬ルヘリ

大皮のつたみは
 特製リール
 五日分てきる

愛用特製 十五日分二門
 縮短用五日分高十倍金剛門
 送附内地土美海外同金剛門
 大皮曲徑九條通四丁目
 發賣元 九條藥局
 京都府 竹村幸次郎

和洋家具 平壤泉町
 製造販賣 三國商店
 學用品 山本辰三郎
 製板製造販賣 電話三八七三番
 振替東京八八〇八八
 ▲特に製板は弊店獨得の考案と成
 れる標めて造術的製作品に有之候

京都吉野電話 七六六
 麻城 旭硝子工場
 兄弟硝子主 旭硝子工場
 弊工場主人王主 旭硝子工場
 其他 硝子の御注文に可應候

東都

パナマ

旭硝子工場

旭硝子工場

旭硝子工場

部の偉觀あり

あるくわん

帽子 原料 付属品 鑑會社

江指商店

大阪高麗橋東詰 電話東五〇五二六 五〇六五

[illegible]

(所務事業營社合式株藥製星)

東京の中央、京橋々々、咄然として天空を突ける星製藥株式會社は、其の建築の壯麗にして雄大なる洵に東都の偉觀なり。有名なホシ胃腸藥は實に此の會社より製出されるものにして品質に於て効能に於て賣行に於て信用に於て他の胃腸藥に比し嶄然頭角を拔けり。

藥良病胃

ホシ胃腸藥

定價
一廿錢
一五十錢
圓

ホシ胃腸藥の最も特長とする所は
一、便通を能くするにあり
一、熟睡せしむるにあり
一、消化を迅速ならしむるにあり

赤い罐

星製藥株式會社
資本金壹千萬圓
東京
星製藥株式會社

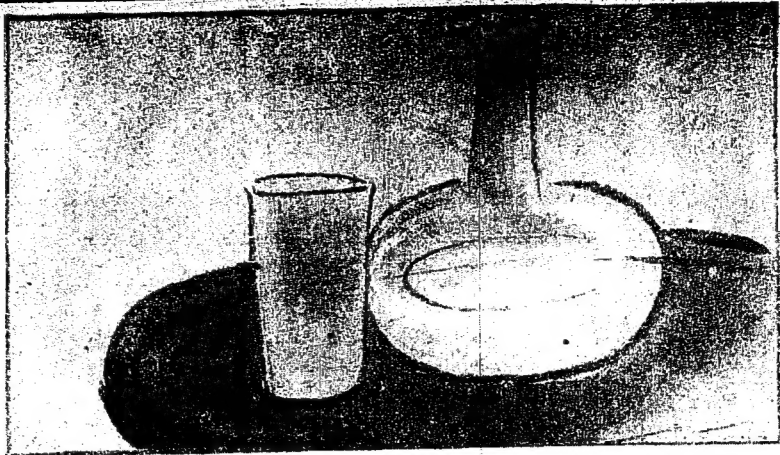
東都の偉觀あり

100

人々の所爲なるべきは三千三百六十六名（一）等四百六十七外人
四日入る處に於て土庫等二等（二）

[illegible]

「そんなには細子でつて叫んで、さばか
り想はなかつたつて叫んでせう。
些々は私のことと思つて、直城ま
かう、大膽君の心も判つて、せ
うに……」さう言つた頻りに
情熱的な言葉を彼は思ひ出した
として、深い調へ思ひ出す態
のやうな態度で、自分の心をく
い……動かし行たこと……
ひ出した。知覚の障礙した目
分の身體に付く入るやうに、
て身體の自由を失つた人を、
るやうに、肉體的な其の身體を
さされて来たことを、彼は思
「何となくだ！」また、彼



ひ出した。
其時は何れも、ほんやりとじしてゐたが、今考へ付て見るにそれは吾なお須磨の豫定の行動のやうに思へて来た。自分からうした陰謀へ突落すまでの手段をいろいろに執つてゐるやうに見られて来た。さう思ふに至りては、自分が外國から歸つて来し以來、お翁君の目から輝きに輝きあめ露が、今日、愈解けだつた氣がした。今までいゝん、意味をもたせて自分に對してゐるお翁君の仕事は、今日の事を起るために思つて來た。
「お翁君のやうに思つて來た。昨日の事成就させるために今までいろいろな犠牲拂つて努力したうに思はれて來た。」
さう氣を振立てて見るに、辰磨は愈々不審な悔恨の情に驅られにはづかれなかつた。

だが、それはしかし口へは出がつかつた。彼等ばかりで、彼は女にも言ふことは出来なかつた。
「奈何したのその顔はり？」
「奴等はあゝ入つて来て、お翁君につたり坐つた。まあ悪い顔をすこし悪い夢で見たら、悪い夢を見たんだといや、見せられた。誰か」

今最妙藥
理井町電話四二二
のみのや京薬店

「言はぬばかの顔をしてお翁は眼を見張た。
『なんぞ、白ぐい女だらう』
なんて圖々々女だらうやうであつても、まるで、さうでもないやうな顔を」

天 大田牛 歩

評定遊樂の女王、句もたはし無類
龍山島 石

秋の時はさ語す 遊見舞
時常花庵時時遊す 見舞
人 東京時 沈漱子
挽男 出 津 瀬川 太 樹 子
同 南川 船 子

酒碗で似てる 平北つと聞え
同 平北つと聞え

親類の一觸で吸着み落し

○新世帯の或は若菜婦
(例)すこ木(の誠へ)する新世
帯 帯 帯 帯
(同)四段から戸をたかへる新世
帯 帯 帯 帯
(同)まだ戀の氣分でくち若菜
婦 婦 婦 婦
○花 (劍花坊)

(例)純衣が來て誘ひ出す花の山
(同)待つ顔へ櫻をり 咲きか
(同)つり顔へ櫻をり 咲きか
(同)小主水の孔雀の袖へ花が降
る (劍花坊)

○我
(例)我辰は云はず腰を小さい女
子 (主川柳)

佐 京城明治町二丁目
木々 胃腸病院
入院隨意 電話二六六番

聯珠競技 (第六十
九回)
先手勝 中取竹一
初段 岡定助
九段 岡定助

「もうお嬢さまのP」お嬢さまは集合被がしたやうに、そのつごころ持った手を下けて、「一緒に来たんですから、一緒に歸りませう。ねそれがいい」といふので、まあお嬢さまをお飲みなさいな。」

「いいです。遊んでいます。」突進されコッパを見向きもしなかった。辰助は思ひきつにならぬが先きにへんくしならぬ。僕がお先に失敬します。」辰助は不意に突立つた。そして、僅かへ付けたペルを掴んだ。それに引入れられたやうに、お嬢も手をふくらして、辰助の裾袖に手をつけた。

日報詞苑

●投稿 稿誌 迎 ●
 ▲掛軸 題詠
 ▲俳句 題不定期發表
 ▲情紙 各題五首 五句以内
 ▲俳諧 毎土曜口
 ▲樂曲 樂集に限る
 ▲短歌 宜しく日報社刊報則宛

川柳 朝花坊道

「まあ、きつてお顔ね。そんなを惡い様子をしないで、おりやを待たしたるへ何なり」呼び立て嬌しなをら。お賢は代筆のコツに水を注いで出した。

「これも……しかし、衣向きは能の……落人だ！」さう思ふと、女中が便かを懸るやうな聲にももかないで、腰解もくもが氣を取って、めしや有難うだが、もう辭儀めいたすから、先き歸て下さい。僕は……」

**京城明治町電話風三〇四
産科婦人科
中央婦人病院
院長 衣笠舜山**

少しづつ、歸ります。穿へ深さに首垂れられ、コッソンを取られ、手につかつた。

[illegible]

大正有
電話八七三
大正有
電話八七三

花

はな

新 高貴織
タツタ三圓五十銭

アザ・なまつ
はな

花

はな

新 高貴織
タツタ三圓五十銭

大正有
電話八七三
大正有
電話八七三

花

はな

新 高貴織
タツタ三圓五十銭

福助の春用

花の下を歩く歩に大
ありました。花の下を歩く歩に大
入る。花の下を歩く歩に大
り。花の下を歩く歩に大
白。花の下を歩く歩に大
から。花の下を歩く歩に大

見か
ひとしほおもしろ
一入面白き
はるの
春用

ふくすけた
福助足袋
お

福助足袋株式會社
東京
大阪
神戶
名古屋
京都
福岡
横濱
仙台
青森
秋田
山形
宮城
福島
茨城
栃木
群馬
埼玉
千葉
東京都
神奈川県
静岡県
愛知県
岐阜県
富山県
石川県
福井県
滋賀県
奈良県
和歌山県
鳥取県
島根県
岡山県
広島県
山口県
徳島県
香川県
高松市
愛媛県
高知市
佐賀県
長崎県
熊本県
大分県
宮崎県
鹿児島市
那覇市

あそび

資本金六百萬圓

(明治三十三年八月設立)

當銀行ハ預金、貸金、爲替等一般
銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
所被仰大目付丁十番地

株式會社漢城銀行

專務理事 明使司
支店長 配取締員
李韓龍 鄭光九
支店 平壤 大同門開成南大門鐵山
東京城東大街和町西大門
川張所現在地

セメント瓦
特許セメント瓦製造株式會社
京城市明治町二丁目
龍山電話九三八番
長電話九三三七番
龍山電話二四四番
京城市明治町二丁目電話二一〇二番
痔疾專門
京城久枝肛門病院

千代田
鑰子港

代理店 山城町二丁目
山邑酒造株式會社
京都支店

昭和六年四月
設立
資本金四百萬圓
實收資本二百五十萬圓

鑰子港
油醬株式會社
釀造

油醬タゲヒ

登録商標

赤毛染

去らが

ナイス

染めたと見えぬ
自然の黒髪に染る

鏡か
証拠

◆ ナイス五大特長

- ◆ タツタ二十分で髪々染まる。
- ◆ 自然の黒髪の色艶に染まる。
- ◆ 襟枕に汚染せず毛癖を直し。
- ◆ 一度染めて剥げず永く保ち。
- ◆ 用法至極簡易便利なり。

アナタのお髪を生れ付の黒髪より尙一倍美しく見せるしらが赤毛染はナイスに限る。

全国及海外諸島の藥店化粧品店にあり
發賣 大阪・東京 丹平商會藥房